

平成25年度事業報告書

平成25年4月1日から26年3月31日まで

特定非営利活動法人河北潟湖沼研究所

1 事業の成果

組織強化の取り組み

今年度は会員が8名増え、組織基盤強化の取り組みの成果として評価できる。新入会のうち30歳代が3名で、30歳代会員は合計4名となった。

2011年の総会の時点では、30代会員は1名、40代会員が3名、50代会員が2名、60代以上が8名と過半数であり、また結成当初のメンバーが8名と過半数であった。この時の方針は若手に引き継ぐために、年配者や結成時のメンバーが引き続き頑張るということであった。現在でも多様なメンバーの総力の発揮が求められている状況は変わりなく、以前に増して河北潟湖沼研究所の謝意的役割や地域からの期待は増しているが、現在のメンバー構成は、30代が4名、40代が4名、50代が4名、60代以上が11名となり、50代までが過半数を占めるようになった。また、結成後に新たに参加したメンバーが2/3となった。

以上の点からは、河北潟湖沼研究所が新たな段階に入りつつあることが指摘できる。しかし、現在でも60代以上の会員が半数程度を占めることから、年配者の引き続き貢献が求められており、次の世代の育成を図りながら、経験を活かした多様な総力の発揮が求められる。

新しい若いメンバーは、やる気、能力とも優れているが、まだまだ経験不足のため、5年程度の期間を見越して組織構築の方針を持つ必要がある。またその期間には年配会員の引退も避けられないので、組織が減少しないような新規会員の獲得を目指す必要がある。

以上の点から、2014年度の会員の獲得目標として7名とする。

作成した4種のパンフレット類やイベントでのつながりを活かす活動が進展しつつある。しかし、まだ浸透が弱いので、パンフレット類の普及を進める。

友の会の会員の拡大が遅れているが、その位置づけを含めて検討する必要がある。当面の方向のひとつとしてネットショップの会員を増やすこと、既に多くの活動で参加している市民を友の会に迎えるよう積極的に働きかけることとする。

首都圏諸団体への複数回の訪問とエコプロダクツ展等への出展により、全国の多くの団体との交流が飛躍的に進んだ。

研究・啓発活動の進展

研究・啓発分野の活動として、河北潟レッドデータブックの普及に取り組むとともに、干拓地の現状調査を実施した。水田の生物相の比較調査を実施した。

河北潟セミナーを1回開催した。

研究助成に1グループを選定して、10万円の研究助成を行った。

大崎地区の生きもの調査を実施した。

河北潟総合研究を発刊した。

全般的には研究分野に関わる会員の共同研究の実施の方向性が確立されておらず、組織としての研究への活性は低い状態となっている。

地域における協働事業の進展

地域における環境保全と地域振興に係る活動の推進のため、地域を構成する多様な組織、多様な主体との協働を進めてきた。これまで、河北潟自然再生協議会主催の河北潟クリーン作戦、河北潟湖面利用協議会、河北潟自然再生まつりの開催等については例年通りの成果として現れている。「河北潟の水辺を守り隊」とともにチクゴスズメノヒエの除去活動については4回行った。しかし、農水省補助金の獲得に向けて計画した「河北潟の水辺を守る地域協議会」の取り組みは助成金に採択されなかったため、構想段階で終わっている。

行政や企業を加えた地域協働の実現が課題となっている。

事業活動・助成金活動の進展

こなん水辺公園における金沢市協働チャレンジ事業については2年目の活動を実施した。特にヨシ舟づくりは大成功を収めた。2年間の活動が終了したが、こなん水辺公園救援隊の組織化ができた。金沢市緑の花の課により引き続き予算を得ることができた。

トヨタ助成については2年間の活動ですずめ野菜の生産と販売の方向が整ってきており、野菜の毎月の売上げ続けており、潟と砂丘の循環事業の基盤を作ることができた。

アクト・ビヨンド・トラスト助成については、七豊米と生きもの元気米の方向性が確立した。2014年度に引き続き実施することになっており、生物多様性認証の確立が課題となっている。

パナソニックファンドによるキャパシティビルディング助成では、確実な組織強化が図られた。

雇用者による活動推進

受託事業および助成金事業の進展は、複数の雇用者を置く体制をとったことによるところが大きい。専従者を確保することができたことで、活動の多方面への広がりや受託事業の増加など飛躍的な活動の進展が引き続き見られた。

被災地支援について

東日本大震災の被災地支援活動として、河北潟の水辺を守り隊の活動において、被災地支援メニューを行えるように当地と現地との調整の活動を行った。

日常活動について

機関紙「かほくがた」は、2013年度に発行すべき19巻の4号が未発行となっており、早期の発行が必要である。機関誌「河北潟総合研究」は第17巻が未発行で、現在のところ査読～編集段階となっている。

ホームページの刷新をおこなった。

facebookで積極的に活動の広報をおこなった。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
研究・広報及び日常活動	河北潟の自然環境等の研究、広報誌の発行、通信活動等	25年4月～26年3月	河北潟及び周辺	4	全国の研究者100万人	316
協働による保全活動	外来種の分布調査、チクゴスズメノヒエ除草及び水辺管理体制の確立	25年11月	河北潟	90	農家・住民10万人	26
こなん水辺公園協働事業	河北潟とこなん水辺公園の自然について来園者らに解説、園内の諸活動	25年4月～26年3月	金沢市	16	金沢市民その他50万人	502
農地の保全	農地の自然環境を協働の力で保全する	25年4月～26年3月	金沢市	20	河北潟地域の住民10万人	2,000
研究助成	河北潟の環境保全に係る研究活動を援助	25年4月～26年3月	河北潟	2	地域住民等10万人	100

普及活動	河北潟セミナーの開催、事業の紹介と普及	25年4月～26年3月	河北潟及び周辺	10	河北潟地域の住民10万人	1,232
------	---------------------	-------------	---------	----	--------------	-------

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	支出額(千円)
出版販売事業	研究成果の印刷物の販売	25年4月～26年3月	全国	4	513
循環農産物事業	環境活動から生まれた野菜の販売、協働米の販売	25年4月～26年3月	河北潟周辺	4	759
その他の受託事業	調査受託等	25年4月～26年3月	河北潟周辺	4	6,928